



福島小学校

校長室だより

No. 5

令和3年2月24日

卒業式の意義

コロナ禍の影響を大きく受けた本年度。3週間後には、6年生にとっても学校にとっても最も大切な卒業証書授与式が行われます。

6年生にとっては、小学校生活の6年間を振り返って成長を自覚するとともに、感謝の心を持ち中学校に向けての意欲を高めていくこと、在校生にとっては、6年生を祝福するとともにその姿にあこがれを持ち、次への希望や意欲を高めることをめざします。特に5年生は、最高学年に向けての心構えを学ぶ場です。卒業式に向けての式場準備、練習など一連の取り組みの中で子どもたちを育てていきたいと考えています。

コロナ禍で行う今年度の卒業式は、感染防止対策を徹底したうえでの実施となります。合唱や呼びかけは控えなければなりませんし、座席の間隔をあけなければならないことから例年のように、全校児童が式に参加することがかなわなくなりました。

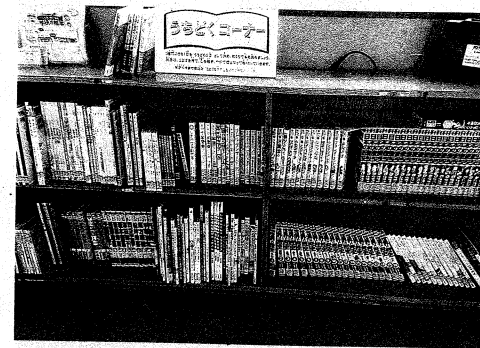
小学校における卒業式の意義をしっかり押さえ、文科省「教育活動の実施等に関するQ&A」に基づき、近隣の学校とも相談しながら、次のような流れで実施させていただきたいと考えています。

- 1 卒業式に参列するのは、卒業生、保護者（各家庭2人まで）、5年生児童、教職員とさせていただきます。
- 2 ご来賓の臨席は、ご遠慮いただきます。
- 3 1～4年生児童は、当日8時40分から運動場（雨天の場合は体育館）で、6年生とのお別れ式に参列します。終了後9時前に下校します。
- 4 卒業式の式次第は、簡略化します。
- 5 3月11日（木）5年生が式場準備をし、練習を始めます。練習時間も例年より少なくします。

全校児童がお別れ式、卒業式の意義を理解し、卒業生への感謝の気持ちを高め、一人一人がどのような態度で式に臨めば良いかをしっかり学ばせたいと思います。その場にふさわしい参加の仕方について理解を深め、規律、気品のある行動の仕方を身につけさせていきます。厳粛な中にも温かみのある式となるよう、そして一人一人の成長につながる卒業式となるよう、取り組んでいきたいと思っています。

うちどくコーナーが一新されました

校長室前にあるうちどくコーナー。前年度からおいてあった本を子どもたちがよく読んでくれていて、「新しい本に変えたいな」と思っていたところ、「河北地区子どもを育てる協議会」からたくさんのご寄付をいただき、また寄贈図書も入れて一新することができました。先生方が「うちどく」のシールを貼って整理をしているのを見ながら、「早く借りて読みたいなあ」と待っていてくれた子どもたちがたくさんいて、とてもうれしい気持ちになりました。さっそく借りて読書タイムに読んでくれている子もいます。



福島小学校の子どもたちは、読書好きの子どもが多いです。2月に行ったアンケートでは、読書カードに書いていない冊数も入れると、2か月間の休校期間があったにもかかわらず、6月から150冊以上読んだ子が28人もいました。200冊以上読んだ子もたくさんいます。全校では平均約75冊読めていました。あと1か月でどれだけ増えるでしょうか。

さらにもう少しお願いすることがあるのですが、読む本のジャンルを広げてほしいなと思います。事典や図鑑で知識を得ることは、もちろん楽しいことですし大切なことです。物語を読んでその時代の人の生き方に思いをはせたり、登場人物の気持ちに寄り添ったりすることも、人間としての幅を広げてくれます。よい本をたくさん読むことで、いろいろな言葉を知り、人の生き方を知り、それが実体験と重なって、子どもの心は、ぐんぐん成長していくのだなと実感しています。